

研究結果報告書

所属 中国社会科学院
役職 研究員
氏名 王 鍵

研究結果

研究テーマ：中日関係における台湾問題について

「台湾問題」は中国の内政と中国の核心的利益の核心であり、中日関係の基礎の基礎であり、越えてはならないレッドラインでもある。1972年9月29日に中日国交正常化した時に発表された『日本国政府と中華人民共和国政府の共同声明』によって「日本国政府は、中華人民共和国政府が中国の唯一の合法政府であることを承認する」、「中華人民共和国政府は、台湾が中華人民共和国の領土の不可分の一部であることを重ねて表明する。日本国政府は、この中華人民共和国政府の立場を十分理解し、尊重し、ポツダム宣言第八項に基づく立場を堅持する」とはっきり規定する。まだ80年代中国改革開放と伴っての中日関係の流れはODA提供などを含めて良い局面を迎えている。それにも関わらず、後冷戦時期の中日関係における台湾問題はこれまでと一変して益々複雑化し敏感化し、厳しい中日対立の焦点となっている。主因としては日本はこれまで中日間四つの政治文書を堅持しえない。とるにまだ米国に追従し「台湾カード」を打ち出して中国敵視政策をとっている。ことにある。いわゆる「台湾有事は日本有事」という言い方を日本政治家が打ち出して、これはまたあまりにも荒唐無稽で危いことである。まだ昨年未だの「安全保障関連」三文書と今年「外交青書」では、みな中国を「最大の戦略挑戦」と見なし、今の中日関係は中日国交正常化した時より最も深刻な危険な時期である。双方とも冷静に意見交換と真剣対話を通じて正常軌道に帰するよう努力する必要がある。双方とも中日間四つの政治文書における台湾問題に関するコンセンサスを真面に確認し順守すべきである。現在、中日関係の新旧の問題が次々と顕在化し、挑戦が押し寄せてくる。中、それらを効果的にマネージ・コントロールすることは大変重要である。日本側には、約束と信義を守り、台湾問題の善処、中国の核心的利益への損害の停止を求めている。そのため相互尊重と相互理解の基礎に立って、学者も含めて中日各レベルの対話をもっと大事にすべきである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

《论民进党蔡英文主政以来的台日关系》《台湾研究》2019年第3期；
《日趋“脱轨”的日本涉台政策》《东北亚学刊》2021年第6期；
《俄问题冲突危机外溢下的台海局势》《台海研究》2022年第3期；
《当前日本对台谋略调整的脉络和走势》《东北亚学刊》2023年第4期（预定）。

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)